

2021年11月15日

シーメンスヘルスケア、「高画質」と「撮像時間の短縮」を実現した0.55テスラMRIの販売を開始

シーメンスヘルスケア株式会社（本社：東京品川区）は、デジタルと0.55テスラを組み合わせ、新しい価値を提供するHigh-V MRI「MAGNETOM Free.Max（マグネトム フリーマックス）」の販売を2021年11月15日より開始した。

1980年代にMRIが臨床利用されはじめるなか、同社は1983年に0.35テスラMRIを日本国内で初納入した。その後1.5テスラ、3テスラといった高磁場化の技術開発および導入が進み、さまざまな撮像技術が進歩した。さらには超高磁場の7テスラも開発され、海外では臨床応用が進んでいる。その一方、高磁場化に伴う問題もあり、数年前からISMRM（国際磁気共鳴医学会）などの国際学会において、改めて低磁場MRIの可能性に注目が集まっている。

これまでは、低磁場（1.5テスラ未満）MRIは、「低画質」、「撮像時間が長い」というのが一般的な常識であった。コンピュータ技術の進歩により、MRIの技術においてもデジタル化が進み、今回新たに開発したのが0.55テスラMRI。デジタルと0.55テスラの融合により、これまでの常識を覆す「高画質」、「撮像時間の短縮^{*1}」を実現した。従来の低磁場の限界を超えて、1.5テスラMRIに近い高画質を実現するとともに、高磁場では困難だった部位の臨床応用を可能にし、ひとりでも多くの被検者が質の高い医療へアクセスできるよう、これまでになく低磁場MRIを提供する。

シーメンスヘルスケアでは低磁場MRIを本格導入することにより、今後日本におけるMRI製品の新たな市場を開拓していくとしている。